

文久元年

文久元年辛酉首夏

(二月〜三月、日記ナシ)

(四月)

(四月一日〜廿日、日記ナシ)

(四月) 廿一日

朝より認物致し、終日。八ツ時より父さま、勝蔵さま、堺え参られ候。堺にて一宿。此日夕暮、三之助留主番に参り、三更二臥。

(四月) 廿二日

後藤さまえ参り、帰り、終日画。此早朝、三之助、木津え帰り候。又夕暮に留主番に参り候。夜画、二更迄。此日、父さま、勝蔵さま、万助同道にて、河州吉井え参られ候。

(四月) 廿三日

早朝、三之助、木津え帰り候。終日認物。薄暮、三之助参り、此夜一宿する。夜学、七ツ時迄。

(四月) 廿四日

早朝、三之助、木津え帰り候。終日画。此日暮後、父さま河内より帰られ候。此時、辻さまより酒肴下され候。

(四月) 廿五日

終日画。此昼時、万助参り、包物持参。此日、勝蔵さま参られ候。八ツ時、木津さまより呼に來り、父さまと同道にて木津さまえ参られ候。甚馳走戴頂サレ、一更二堺お吟さまと皆々帰られ候。八ツ時迄認。

\* (戴頂サ (ママ) )レ

(四月) 廿六日

朝、髮結、又認物。此八ツ時、中村広助さま参られ候。此日、幸釜日、薄茶出す。此時、辻お後室さま入らせられ、お茶出す。色々興談、七ツ前に帰られ候。夜八ツ時迄認物。

(四月) 廿七日

早朝、三之助、私二人、天王寺楚山先生え参り候処、天王寺大サワギ。前日、塔の上にて七十斗の男花火センコにて火付、早速トラワレ候。此由、楚先生に承り候。昼前に木津え帰り、八ツ時より勘を連、三人同道にて中之島え帰り候。此時、釜懸り。日暮、池田さま御こしにて茶出す。色々御はなしにて、一更に御帰り遊し候。四ツ時に臥。此時、長巻稽古する。

\*大サワギ(大騒ぎ) \*センコ(線香) \*トラワレ(捕レ) \*塔(塔)

(四月) 廿八日

早朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、画。此日日暮、父さま、勘、木津え帰られ候処、三之助参り候。勝蔵さま居られ候。此夜三更。

(四月) 廿九日

朝より、勝蔵さま、富、木津え帰られ候。此朝、後藤え参り候。帰り、画。此八ツ時後より、私、三之助二人連にて東御坊え参詣いたし候処、智明院さま外二尼講居られ、御坐終てより、正讚寺、稲田、西念寺の開帳に参り、日暮に木津え帰り候。三之助、私、木津にて一宿する。明早朝、江戸客皆々長野え参りはつのはつ、朔日、雨中にてやめ。

\*参り(参る) \*はつ(筈)

(五月)

(五月) 朔日

早朝より、三之助、勘五郎、中之島え帰り候。此日、終日襖認、漸日暮認上り、此日八ツ時より勝蔵史参られ候。此夜、色々仏法咄、勝蔵史にすゝめる。四ツ時二臥。

(五月) 二日

此日、勝蔵史家の事二付いろく心配の処、先々木津の宅にて住居のやうすに相成。此日、皆々木津宅え参られ候。此朝四ツ時、私、勘五郎二人連にて中之島え帰り候。最昼にて、昼飯過而、勘五郎中之島え帰り候。此日、終日画。又八ツ時、勘五郎参り、いろく荷物持て帰り候。私事、日暮より辻さまえ御茶引に参り候。此跡、父さま、岡本豹太郎連て参り、少シクシテ豹太郎帰り候。父さま、辻さまえ参られ候。一更に宅え帰り候。読書、明六ツ迄。  
\*最(尤) \*此跡(此後)

(五月) 三日

終日認物。此日、百孫さまえ御茶戴に参り候。此時、笑さま御こしにて、七ツ時に帰られ候。

父さま、八ツ後時より木津え帰られ候て、一宿遊し候。手習する、八ツ時迄。

(五月) 四日

終日認物。八ツ時、髪結。此朝、父さま木津より帰られ候。夜三更迄詩作する。

(五月) 五日

父さま朝より御礼ニ参られ候。昼後より木津、天王寺え参られ候。私、昼後、辻さまえ御礼に参り、其より井上さまえ参り、又木津さまえ参り、帰り候。此時、尚五郎さまより呼に來り、玉五さまと同道にて玉尚さまえ御茶戴に参り、御酒肴にて呼れる。七ツ時に帰り、唐津屋敷内娘さま三人御遊ひに御こし遊し、日暮迄居られ候。此時、笑さまも居られ候。夜、彼是として一更に臥。

(五月) 六日

朝より刀ノ画認居候処、唐津屋敷御安さま、御まささま、御ひなさま三人御こし遊し、暫御遊ひ遊し候。此時、辻さまよりしやうふ湯御坐候て、呼に御こし、又風呂戴、帰り候。しばらくして、辻新さま、惣兵衛さま御こし遊し、五兵衛、此時、御こし遊し、辻新御手前、又中広参られ、玉尚さま参られ候。木津笑さま参られ候。色々珍談にて長坐、七ツ時二果る。此日昼後より父さま御堂さまえ御坐に参られ候留主中、又五兵衛、私、尚五郎さまえ参り、御酒出にて一寸御膳戴。日暮早々、父さま帰られ候て、私と入替り候。認物。二更に臥。  
\*しやうふ湯(菖蒲湯)

(五月) 七日

朝、後藤さまえ参り、読書済て帰り懸、木津さまより呼に來り候ゆへ、一寸参り候処、会席附認物。早速帰り、又此時、辻さまえ寄候処、尼崎さま、大根屋さま御こし遊し、私、大ゐに留られ候。御茶の間にて薄茶戴。此時、内より呼に來り、早速帰り候処、唐紙屋参り居候。それより終日認物。会席付認物。二更二臥。此七ツ時、三之助木津(え)帰り一宿する。

(五月) 八日

朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、終日画。此日昼後、笑さま御こし遊し、日暮迄居られ候。父さま御堂さまえ八ツ時より参られ候て、木津え帰られ候。此日八ツ後、三之助、元之助、勘五郎参り候。夜二更迄認物。父さま木津にて一宿遊し候。昨夜より母さま腹いたみ。

(五月) 九日

終日認物。此日昼時、山西参り、又中村広助使参り候。異人大坂え來り候。夜一更二臥。

(五月) 十日

朝より認物。此昼前、向ひ側より異人参り候。此昼後、髮結。終日画。此日、笑さま来られ候。此日暮、辻さまえ風呂戴に参り候。帰り、認物、三更迄。

(五月) 十一日

朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、認物。終日画。此昼後、表側の川え異人舟にて来り候。**蛤雲啼**にて見る。此日、笑さま参られ候。父さま、此日、木津より帰られ候て、又々木津え帰られ候。一宿、木津にて遊し候。夜、認物、四更迄。

\* 蛤雲啼 (蛤雲亭)

(五月) 十二日

朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、終日画。此日、釜掛。辻新さま御こしにて、稽古遊し候。此時、笑さま御こし遊し候。夜四更二臥。此日、父さま木津より帰られ候。

(五月) 十三日

朝より認物。此朝四ツ時より、父さま中村広助方え参られ候。昼時二帰られ候。此時、笑さま御こし遊し候。此夜四更二臥。此日、表側蛤雲亭ノ図、写しに参り候。

(五月) 十四日

七ツ時過より、私、三之助、笑さま三人連にて木津え参り、笑さま、三之助、**長捲稽古**。其時、私、天王寺え参り、又三人連にて中之島え帰り候。四ツ時。日暮迄画。夜三更迄。

(此朝、木津より帰り候へは、京叔父帰られ候。又八ツ時、勝蔵さま御こしにて、色々イクサノ興談御坐候。此七ツ時、京叔父帰られ候。此日暮、岡蔵にて**長捲稽古**御坐候。是過て、又木津え三之助と二人連にて帰られ候。三之助、二更二中之島え帰り候。)

\* 長捲 (長卷) \* イクサ (軍) \* 長捲 (長卷)

(五月) 十五日

終日画。此日、笑さま御こし遊し候。夜三更迄。此朝、木津え父さま帰られ候。

(五月) 十六日

朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、画。此日昼後、鴻市さまえ参り、襖認、日暮二帰り候。此行懸、辻さまえ参り、風呂戴候。夕方より梶木町尊光寺にて御法坐御坐候て参り、一更二帰り、しはらくして臥。此日、釜掛。私留主中、新三郎さま御こしにて、稽古遊し候。

(五月) 十七日

早朝、髮結。終日画。此日、笑さま御こし遊し候。又夕方より尊光寺え参り、一更二帰り候。此日昼時、肥後熊本一空と申僧参り、此人日本国中書画集られ候て、私え頼に参り候。此日、

父さま木津より帰られ候。

(五月) 十八日

朝より画。昼後より井上さま参り、日暮迄画。此日、笑さま御こし遊し候。又夕方より尊光寺え参り候。一更二帰り、暫納涼して、臥。此夕方、玉尚さまにて釜。父さま参られ候。一更帰られ候。此日、堺茶村参り候。此日、井上さまにて風呂戴候処、余り叮嚀、殿扱ニテ困る。

(五月) 十九日

朝より画。此日昼時、一空参られ候。又昼後より後藤さまえ書頼ニ参り候処、先生仰、尾州書画会出来候ゆへ私ニ画を御願遊し候。先生、花蹊史は此節とふしてこぬと御申遊し候ゆへ、画の認物にて御無沙汰と申候へは、先生、其様ニせい出してイクラ金をもうける哉、と御申遊し候。一笑。夜四更迄。

(五月) 廿日

朝より認物。此日、百孫さま御釜日にて、御茶戴ニ参り候。昼時、笑さま参られ候。昼後、父さま、高木直太郎義二付、筑後屋敷え参られ候。此日八ツ時後より井上さまえ参り、日暮ニ帰り候。此帰り懸、辻さまえ寄、風呂戴候。宅え帰り、認物致し居り候処、加州屋敷より呼ニ参り、北平辰え参り、屋敷、小倉さま、安達さま、町方、鴻池善右衛門、辰巳や隠居、山家や□三郎、辻五兵衛、中村弥三郎、妓婦六、七人。此席画はつみ候て、是又一興致し候。三更半ニ帰り、四更迄認物。

\*義(儀) \*はつみ(弾み)

(五月) 廿一日

朝より屏風認。此日昼後、釜掛。辻新さま、直五郎、百孫さま御こし遊し、此時、笑さま居られ候。此七ツ時、高木参り候。又五兵衛さま御こし遊し候。皆々薄茶出す。夜四更迄夜ナへ。

(五月) 廿二日

朝より昼迄屏風認、八ツ時より井上さまえ参り、日暮ニ帰り、辻さまにて風呂戴、帰り、暫納涼して、三更二臥。此日、笑さま参られ候。

(五月) 廿二日

朝より屏風認物終日致し、日暮、辻さまにて風呂戴、帰り、暫納涼して、四更迄画。此日八ツ時より井上さまえ参り候。此日、笑さま御こし遊し候。

(五月) 廿四日

終日認物致し、日暮、辻さまにて風呂戴、帰り候。此時、笑さま御こし遊し候。三更迄画。此夕、西北方より珍らしき星出。

(五月) 廿五日

早朝より、三之助、津戸え参り候。終日認物。此昼前、泉吉え筆買に参り候。此日八ツ時、尼崎さまソウシキにて父さま参られ候。此七ツ時、一位さま御こし遊し、此時、父さま同道にて木津え帰られ候。夕暮、暫納涼。此時、平野屋お伝女、歌女、お安、お政女、遊ひに参られ候。暫画を見て帰られ候。此夕、床ノ上にて百孫さま薄茶戴。茶の乗酔、夜通しする。頭道具認。

\*ソウシキ(葬式)

(五月) 廿六日

終日認。此日朝、三之助帰られ候。又其後、父さま帰られ候。此昼時、辻さま御見舞ニ参り候。早速帰り、釜懸置。此日、笑さま御こし遊し候。日暮、暫納涼して、一更二臥。

(五月) 廿七日

終日画、認物。屏風認上。夜、蒔画認物、四更迄。

(五月) 廿八日

朝、後藤え参り、相読して帰り、八ツ時迄認物。此時、井上さまえ参り、襖認。七ツ時に帰り、此時、辻さまにて風呂戴、帰り、蒔絵認物、三更迄。此日七ツ時、勘五郎参り候。夕飯食て帰り候。此朝、後藤の帰り懸、木津さまえ寄、香合の菊認。

(五月) 廿九日

朝より昼後迄認物。八ツ時より井上さまえ参り、襖認、七ツ時に帰り、暫納涼して、蒔絵認、四更二臥。此日暮、笑さま遊ひニ御こし遊し、暫して帰られ候。此朝、三之助、木津え帰り、此日暮より勝蔵さまと同道にて堺え参り候。

(五月) 晦日

朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、昼後迄認物。八ツ時より井上さまえ参り、屏風認。此日、薄茶戴、七ツ時に帰り、辻さまにて風呂戴。此夕方、塩飽屋源助賑舞にて辻新さま御こし遊し、此相伴、浪花橋下泛舟、二更迄納涼致し、是も一興。帰り、蒔絵、三更迄。此早朝、堺より長野え参られ候、三之助。

\*賑舞(振舞)

(六月)

六月朔日

朝より昼後迄認物。此八ツ時後より木津さま御茶之湯に参り、此時、客、辻後室さま、新三郎さま、私、五兵衛さま、笑さまにて、格別興事。夕暮に果候。其より、北野愛染さま参り候。笑さま、辻さま、大せいつれにて御坐候。一更二帰り候。認物、三更迄。

(六月) 二日

朝、後藤え参り、帰り、認物終日致し、日暮より、辻久のさまと灸治に日原え参り、帰り、風呂戴、宅え帰り、暫納涼して、認物、二更迄。

(六月) 三日

終日認物。七ツ時より辻さまえ参り、又日原え参り、帰り、風呂戴、其より元之助と同道にて木津え参り、暮六ツ時。其より一寸御坊え参り、帰り、書ノ水書致し、三更迄。其より臥候処、ノミ、蚊にて夜通しする。

\*ノミ(蚤)

(六月) 四日

早朝より屏風、書認。昼前に中之島え帰り候。其より絹地中将姫さま認、先七部認上。日暮より辻さまと又日原え参り、帰り少々腹いたみにて、早速帰り臥候処、尚五郎さま釜懸呼に参られ、此時、連客、辻源蔵さま、一十郎さま。御酒、薄茶、ハテ一更。

(六月) 五日

朝、中将姫さま認上。其より後藤え参り、相読して帰り、昼後、辻さまえ参り、風呂戴、暫して井上さまえ参り候処、御客さまにて差つかへ、早速帰り、いろ／＼いやな事御坐候。此時、笑さま居られ候。其より玉五さま、助炭、扇子、日暮迄認。其より暫納涼致し候処、勝蔵史、勘、富参り、一更迄居られ候。又認、二更迄。

(六月) 六日

朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、認物。昼後より井上さまえ参り候処、暑さにて御休遊し、早速帰り、認物致し、此日、釜懸。辻新さま、尚五郎さま、百孫五兵衛、池田お雪さま、笑さま御こし遊し、日暮迄。此時、暫納涼して、二更迄夜ナベ。

(六月) 七日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。此八ツ時、髪結。此日、京師姉さまより文参り

候。日暮、辻さまにて風呂戴。此時、暫納涼して、一更二臥。

(六月) 八日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。七ツ後時より辻さまにて風呂戴、早速帰り、子供沢山連にて山崎の島え参り川渡り、真二面白き事。此時、暫納涼して、夜ナベ。読書、認物、三更迄。

(六月) 九日

早朝より辻新さまと同道にて後藤え参り、相読して、又木津え参り、桑の小卓にて稽古致し、帰り、認物。日暮より辻さまえ風呂戴に参り、夕飯戴、久のさまと同道にて帰り、又小たち大せいつれにて島え参り川渡り、面白き事。日暮て帰り、久のさま、早朝、帰られ候。此夕、笑さま御こしにて、一更前迄居られ候。一寸読書にて臥。

\*小たち(子たち)

(六月) 十日

朝、後藤え参り、相読して帰り、認物終日致し、此日、京師え包物登す。此夜、認物、読書、四更迄。

(六月) 十一日

朝、後藤え参り、相読して帰り、刀ノサヤ蒔絵物認、終日。此日、釜懸。七ツ時、辻新さま御こし遊し、稽古遊し、朝より笑さま居られ候。辻五、尚、孫右衛門、お雪さま御こし遊し候。此日、京姉さまより文参り候。夜ナへ、四更迄。

\*サヤ(鞘)

(六月) 十二日

早朝より三之助、笑さま同道にて京姉の病氣二付、堺長野え参られ候。此日、父さま木津え襖張に帰られ候て、一宿遊し候。終日認物。夜五更迄、認物、読書。

(六月) 十三日

早朝、五藤え参り、相読して帰り、終日認物。此七ツ時、勘五郎参り、元之助連て帰り候。此夜、父さま帰られ候。認物、夜二更迄。

\*五藤(後藤)

(六月) 十四日

早朝より木津え参り、早速天王寺先生え参り、昼に帰り、八ツ時より御坊え参り候処、御酒戴、舞はつみ、皆々、私舞のぢしてやり、御膳戴て、日暮二帰り、此四ツ時、中之島え帰り



候。此時ハ勝蔵子、私、元之助三人つれ。三更二臥。其より腹いた、終夜くるしくて、夜通しする。此朝四ツ時前ニ、笑さま、三之助、長野より帰り候。

\*はつみ(弾み) \*ぢ(地)

(六月) 十五日

追々病氣よろしく候へ共、また臥居り候処、源之丞、直太郎参り候。此七ツ時より父さまと心齋橋まで参り、帰り、父さま甲斐屋町迄参られ候。私、木津さま参り、お千枝さまの舞ノ地いたし、暫遊んで帰り候。臥。

(六月) 十六日 此日、髮結

朝より釜掛。八ツ時後より辻さま参り、風呂戴、新三郎さま同道にて尚五郎さま参り、御茶戴。其より私宅え御こし遊し、一手前遊し候。此時、源之丞、直太郎参り居られ候処、**吉田**参り、御酒出す。此時、笑さま御こし遊し候。吉田氏、色々珍談御坐候て、一更後ニ、皆々帰られ候。其より父さま、元之助、私、**五霊**さま参り、種木買て帰り、三更二臥。

\*吉田氏(吉田氏) \*五霊さま(御霊さま)

(六月) 十七日

真早朝、百孫さま参り、御茶戴。此日の御軸、道具類、中々面白き事。此連客、尚五郎さま。此八ツ時、池田さま参り、御茶戴、早速帰り候。此四ツ時、御坊より御客参られ候。七ツ時より皆々連にて河徳え参り、御渡拝礼いたし、其より加州の浜にて、御瀬渡り拝礼いたし、帰り、女二人木津え帰り「」、又御帰り拝見に参り候。六更二臥。

(六月) 十八日

朝より暑中見舞ニ参り、帰り、終日認物。此七ツ時、源之丞、直太郎参り、直太郎連て父さま筑後屋敷え参られ候。一更後に帰られ候。

(六月) 十九日

内にて終日シタ、メモノ。日暮、辻さまにて風呂戴候。

\*シタ、メモノ(認物)

(六月) 廿日

早朝より木津御坊え参り、襖草稿、終日認。夕方より**三絃**合す、泰津さまと。

\*三絃(三弦)

(六月) 廿一日

早朝より楚山先生え参り、昼時、帰り候。又終日襖認。此朝、笑さま御こし遊し候。

(六月) 廿二日

終日襖認物。此朝、元之助参り、升屋芥舟さまの灯籠、昼迄認候。此昼時、木津え父さま帰られ候。一宿遊し候。夜は三絃ヒク。

(六月) 廿三日

朝、父さま中之島え帰られ候。襖、終日認候。又ロノ帯認候。

\*ロ(紹)

(六月) 廿四日

早朝、中之島え帰り、終日ゴテ々(々)致し候。七ツ時、辻さまにて風呂載候。此朝、玉尚さまにて薄茶載候。此連客、一十郎さま。

(六月) 廿五日

朝、父さま、元之助、私、天神さまえ参り、帰り、早速百孫さまにて煎茶載。是事面白く御坐候。天神さま御渡り済て、暫シテ父さま、私、梶木町子たちつれまし、筑後の大篝の前にて御帰り拝礼致し、又前洲にて拝礼致し候。四ツ時、木津より勝蔵、おちかとの参り候。子供つれ、皆々木津え帰り候。五更二臥。

(六月) 廿六日

朝、父さま木津え帰られ候。終日襖草稿認。七ツ後時より木津氏え参り、雷の軸拝見致し候。夕方、辻さまより呼に参り、尾崎さま御こし候て肖像ノ相談致し、暫して帰り、襖草稿認。三更二臥。

(六月) 廿七日

早朝より木津え参り、御坊にて襖認終日致し、此日、陀狩一組出来成、今老組赤壁の襖認。此夜、三弦調。

(六月) 廿八日

終日赤壁の襖認。夕方より母さま、元之助、勘五郎、私、住吉え参詣。此時、天下茶やえ寄、大せい誘引致して参り候。帰り、四ツ時。

\*茶や(茶屋)

(六月) 廿九日

終日認物。赤壁認上、又表狩人の画認かゝる。此時、貞次、岡孫参られ候。此夜、ジユ術ハヅム、四ツ時迄。

\*ハヅム(弾ム)

(七月)

七月朔日

終日認物。陀狩、認上る。又此夜、ジユ術ハヅム。此時、三之助、元之助帰り居り候。

\*ハツム(弾ム)

(七月) 二日

早朝、元之助と私、同道にて帰り候て、早速辻さまえ参り候。帰り、終日認物。

(七月) 三日

朝、後藤さまえ参り、相読して帰り、終日認物、灯籠。夜三更迄認物。

(七月) 四日

朝、楚瑞史え参り候処、留主中にて早速帰り、辻さまえ参り、いろく肖像の面認。昼飯戴て帰り、瀑布二服認。此朝、池田さま出シ襖認る。夜二更迄認物。

\*二服(二幅)

(七月) 五日

朝、木津え帰り、楚山先生え参り、昼二帰り、八ツ時より中之島え帰り、此日雨中、大ニ困り入候事也。父さま、三之助、木津え帰られ候。此時、笑さま居られて、七ツ時二帰られ候。京姉小路さまより、包、文着。

(七月) 六日

早朝より灯籠認。此日、子供七ツかゝし候て、終日ごとくとくらし居候。夜一更後迄認物。

(七月) 七日 此日、髪結

此日八ツ後より、みなく子たち御こしにて、夕方より、おとり致し、又舞はつみ候て、一更二果る。其より読書、三更後迄。此昼、父、三之助帰られ候。

\*おとり(躍り) \*はつみ(弾み)

(七月) 八日

早朝より平辰秋七草認、又辰巳屋山水認懸る。終日くらし、父さま八ツ時より木津え帰られ候て、一宿遊し候。此夜、認物、読書、夜通しする。

(七月) 九日

終日認物。唐山水二枚認、今老認懸る。此日昼後に父さま木津より帰られ候。認物、夜一更後に臥。此日、京寺町え文出す。

(七月) 十日

終日唐山水認物。七ツ後より辻さまえ風呂戴に参り、夕飯戴て帰り候。此日昼より木津え父さま帰られ候。夜学、認物、明六ツ迄。

(七月) 十一日

終日認物。七ツ時、辻さまえ風呂戴に参り、帰り、夜学、手習、認物、夜通。此日、京姉え包物出す。

(七月) 十二日

終日認物。七ツ時、辻さまえ風呂戴に参り、帰り、又辻さまと梶木町え市見に参り、帰り、認物して、ふとうたねして、明六ツ迄。

\*うたね(うたゝね)

(七月) 十三日 此日、髮結

終日扇子認。此朝、徳明子参られ候。父さまも同道にて木津え帰られ候。此七ツ時、辻さまえ風呂戴に参り、帰り、暫納涼して、夜ナベ、一更後二臥。

(七月) 十四日

終日扇子認。夜ナベ。

(七月) 十五日

朝より御礼廻り。昼前より木津え帰られ候。昼後、私御礼二廻。日暮より、子立おとりおんこくニ参り、一更に帰り候。三更迄納涼する。終夜七墓参り人、当年カクベツ賑々敷事。此三更時、木津幸助参り、木津母クワクラにてあしく候よし、申参り候。

\*子立(子達) \*おとり(躍) \*おんこく(遠国) \*カクベツ(格別) \*クワクラ(霍乱)

(七月) 十六日

朝七ツ時、三之助木津え参り候。五ツ前に帰り候。此日、猶五郎さまより呼に参り、御茶戴候て、七ツ時より辰巳屋振舞にて、アキタ屋敷北綿屋にて席画。一更前二帰り候。暫納涼して、二更二臥。

\*アキタ（秋田）

（七月）十七日

終日扇子認。一更迄読書、臥。此日、京寺町え文出。

（七月）十八日

此日、包物京え出。

終日認物。此朝、父さま木津より帰られ候。此夜、認物、読書、手習。四更臥。又、（翌日へ続く）

十九日

朝七ツより起、六ツ時より三之助連て天王寺楚先生え参り、暫咄して、木津え参り、独中之島え帰り候。四ツ時。此日、終日認物。此夕、父さま上京致され候。夜四更迄。三之助、日暮より留主番ニ参り候。

（七月）廿日 此日、髮結

終日認物。此夕、淀屋橋セガキニ唐津屋敷娘方と参り、帰り、暫納涼して一更後に臥。三之助、夕方より留主番ニ参り候。

\*セガキ（施餓鬼）

（七月）廿一日

終日認物。此日、釜懸。笑さま、辻さま、五兵衛さま、尚五郎さま参られ候。日暮、三之助留主番に参り候。四更迄夜ナベ。

（七月）廿二日

朝、後藤え参り、相読して帰る。此日朝、井上さまより呼に來り、昼後より参り、面稽古して、八ツ後時に帰り、認物。日暮、三之助参り、早速木津え帰り候。一更迄夜ナベ。

（七月）廿三日

朝、父さま帰られ候て、早速木津え帰られ候。此朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。夕方、暫納涼して、夜ナベ夜更しする。

（七月）廿四日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。此昼後、笑さま御こしにて、三之助と同道にて瀬戸物町え参られ候て、七ツ時に帰り候。一更二臥。

（七月）廿五日

終日認物。此夜、明六ツ迄夜ナベ。

(七月) 廿六日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。此日、北楚瑞史え参り、暫咄して帰り、夜、明六ツ迄夜ナベ。

(七月) 廿七日

朝、後藤え参り、相読して帰り、認物終日致し、此日昼後、津のへ高島参られ候。此夕、辻さまえ風呂戴に参り、帰り、夜ナへ、明六ツ迄。此夕、父さま木津え帰られ候。

\*津のへ(津之江)

(七月) 廿八日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。尾崎さま御こし遊し、嵐山、華の山、二服御携にて拜見致し、暫御咄遊し帰られ候。此夕、笑さま御こし遊し候。夜ナベ、四更迄。此夕、長堀火事。

\*二服(二幅)

(七月) 廿九日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。夜四更迄認物、読書。

(七月) 晦日

朝、後藤え参り、相読して、其より木津、天王寺先生え参り、暫咄して帰り、昼飯食て、暫して帰り候処、勝蔵史居られ候。又父さま木津より帰られ候。夕飯食て、勝蔵事帰られ候。此夜、ヨナベナシ。

(八月)

八月朔日

朝より兼画物認。昼後、一寸辻さまえ御礼ニ参り、帰り、八ツ後時より江戸堀葛野さま御隠居にて、永一君の画会催御坐候て、右宅え参り、色々珍合作御座候て、此席大興。一更二帰り候。三更迄認物。此会より帰り候処、木津母腹いたみにて呼に來り、早速父さま木津え帰られ候。

(八月) 二日

朝、後藤え参り、終日草稿認。此八ツ後時より三節天王寺木津(え)帰らし候。夕方に帰り

候。四更迄読書。

(八月) 三日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日鶴二旭認。夜二更迄読書。此日、京姉さまより文参り候。此夜、父さま木津より帰られ候。

(八月) 四日

朝、後藤え参り、終日扇面認。此日、京智願院さまより文参り候。夜四更迄読書、認物。

(八月) 五日

終日認物、夜三更迄。

(八月) 六日

朝、後藤さまえ参り、相読致し、帰り、画候処、少々腹いたみにて臥居り候。此時、笑さま参られ、早速釜掛候処、新三郎さま少々腹いたみにて御こしなく、三之助手前にて茶飲。七ツ時、笑さま帰られ候。此時、辻さまえ見舞に参り、又帰り候。此日朝、京姉小路さまより文参り、和宮様嫁入二付、私御供之儀申被付候。此日、父さま木津にて留主中。此夜、木津より帰られ候。夜学、読書、夜通しする。

(八月) 七日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。此七ツ時より父さま私之事二付、夜船にて上京致され候。此時、辻さまえ風呂戴に参り候。辻御後室さま、右江戸行二付、私をひどく御心はい致し候。此夜五更迄学ぶ。

\*御心はい(御心配)

(八月) 八日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物。夜五更迄学ひ物。

(八月) 九日

昼時、後藤え参り、相読して帰り、画。此八ツ後時、父さま京師より帰られ候て、早速辻さまえ参られ候。私江戸行、色々談事、みなくやめるやう御申遊し、先々やめのつもり二相成候。夜一更迄読書。

(八月) 十日

朝、後藤え参り、相読して帰り、又画。此朝、京姉小路様より文参り、私江戸行二付殿様ひとく御しやん遊され候へとも、先々画のこちらにて盛相成ゆへ余りおしき物と御申遊し、

先々やめるがよいと御申遊し候て、文参り候。此七ツ後日暮、辻さま参り、風呂戴候。此時、尼崎さまより私え着物八丈島ノ綿入下され候て万々うれしく候。此日、父さま木津え帰られ候て留主中。読書、認物。四更二臥。  
\*御しやん(御思案)

(八月) 十一日

早朝、後藤え参り、相読不成ニ、本木津さまえ預ケ、木津え参り、又天王寺楚山先生え参り、暫咄して帰り、木津にて昼飯して、早速父さま同道にて帰り候処、辻さまより呼に來り、早速辻さまえ参り候処、尼崎さま御こしにて、右の戴物御礼申、此時、御酒御坐候て、私一所に御相伴致し、暫して帰り、此時、笑さま居られ候。又釜懸られ候処、辻新さま御こしにて、一手前して帰られ候。此日四更迄読書。

(八月) 十二日

朝、後藤え参り、相読して帰り、終日認物、五節句。夜学、三更迄。

(八月) 十三日

朝、後藤え参り、相読して帰り、早速父さまと蒙求の本買に参り、昼前二帰り、又認物。五節句、此日認上ル。此七ツ時より父さま木津え帰られ候。三之助、元之助、木津さま長卷之稽古に参られ候。夜学する。

(八月) 十四日

早朝、後藤え参り、蒙求の習付致し、新三郎さまえ(と)同道にて木津え参り、竹の四方棚稽古見て帰り候。軸、月下門宗守岸袋、花、白萩。暫して帰り、松村さまの十二月の花類認。此夜三更迄読書

(八月) 十五日

終日十二月花認。日暮より唐津屋敷山田さまえ参り月見の処、無月にて十三弦、三弦和。一更迄遊ぶ。帰り、三更迄読書、詩作。

(八月) 十六日

朝、後藤え参り、相読、講読して帰り、認物。此八ツ時、十二花認上。此時、池田さま入來。此時、北綿富より呼に参り、柳川屋敷千草屋振舞にて、暫して参り候。此日、釜掛。笑さま参られ、又辻新さま、宗兵衛さま参られ候也。綿亭え参り候処、シヤウジヤウ庵にて客、右宅参りかけ候処、もはや狸々庵より皆々帰られ候ゆへ暫御待と申ゆへ、茶の間にて良久待、夕飯食して暫する処、妓婦六人参り、其え行、みなく待ボケ。妓三弦久しく聞て、又酒。いろくおもしろき事。二更、客人帰られ、其より席面はつみ、此時、長憐居られ候。三更



後二三之助迎ひニ参り、駕に乗て帰り候。此夕、父さま木津え帰られ候て、二更ニ帰られ候。此日、雨中。

\*講訳（講釈） \*はつみ（弾み） \*長隣居られ（長隣居られ）

（八月）十七日

朝、後藤え参り、相読、**講訳**して帰り、終日扇面認。此日、雨中。五兵衛さま**先サイ**三回忌法事にて父さま参られ候。此夜、尊光寺え参り候。帰り、二更迄。

\*講訳（講釈） \*先サイ（先妻）

（八月）十八日

扇面認、又半切物認。此八ツ時後、笑さま彼岸参り誘ひに参られ候。三節史と参られ候処、もはや日暮間もなく、北辺方々へ行、夕方ニ帰られ候。此夕、中村広助さま参り、暫咄し有て、帰られ候。其より尊光寺（え）参り候処、御坐一坐済て、迹一坐到逢、誠にくうれしき御法談、一更ニ帰り候。此日、日より能、父さま昼後、木津え帰られ候。二更迄読書。

（八月）十九日

早朝より元之助と二人連にて木津え帰り、唯専寺にて屏風認。此日、日和能、昼後、寺迹見さま御内女子斗、天王寺え参詣致し、日暮に帰り、此夜、御坐拝聞致し、其済て、又願泉寺え参り、一坐拝聞する。

（八月）廿日

昼迄屏風認、昼後、帰り候。**路じ**にて大雨。八ツ時、帰り候。おことつれて、此夜、三之助尊光寺え参り候。此日、三之助、笑さま、元之助三人連にて天王寺詣て、道中にて雨に逢、日暮に帰り候。夜五更迄認物、読書、縫物する。

\*路じ（路次）

（八月）廿一日

朝、後藤え参り、相読して帰り、扇面認。此日、笑さま御こしにて、釜懸られ、辻新さま御こし遊し候。終日雨中。此夜、尊光寺え詣て致し、真に御法談有かたき事、御念仏、尊さ、うれしさ、心にもれ出るほど忝候。一更に帰り候。夜通しする、読書、哥詠。

（八月）廿二日

朝、後藤え参り、相読、**講訳**して帰り、此時、父さま木津より帰られ候。終日認物、扇。此八ツ時、辻さまえ短冊持て参り、暫して帰り候。又認物。日暮より尊光寺え参詣致し、御満坐御法談、真にうれしく、御慈悲、今宵は身にもあまりぬる。一更に帰り候。三更迄読書。此夜一更前より父さま播州行。

此日、淀屋橋渡初。

\*講釈（講釈）

（八月） 廿三日

朝、後藤え参り、相読、講しやくして帰り、昼時より山西三と伏見町加治治郎さま宅え参り、面を願ハれ候相談に参り、席面致し、初薄茶にて、後客人五人参られ、美酒美肴、珍き品類、主人しこう面白き事、半時に帰り候。此客中、春海東治郎、清暉と申しも居られ候。外三人はしらぬ人。此も今作さまの隣家衆にて御坐候也。扱又帰りし時、閉戸にて三之助事、升屋おさくさんのソウ式にて送られ候留主中。夜、認物、読書、縫物、髪結、明六ツ迄。

\*講しやく（講釈） \*しこう（趣向） \*半時（飯時） \*いし（医師）

（八月） 廿四日 此日、髪結

朝、後藤え参り、其より井上さまえ一寸参り、帰り、認終日致し、夜二更迄図作。

（八月） 廿五日

早朝より認物。扇面、七ツ前に出来。其ヨリ半切物山水認。此八ツ後、笑さま来られ、七ツ時に帰られ候。此日、雨中。夜、認物、三更迄。

（八月） 廿六日

朝より虫狩認物、終日致し、此日、木津さまえ参り、風呂戴、早速帰り候。此夜、作図。一更後に臥。

（八月） 廿七日

明六ツ時より起て認物。昼前より辻さまえ参り、身拵して、御後室さま、お久のさま、下女、私、天満尼崎さまえ参り、此行懸、建国寺え寄、鶴を写、暫して尼崎さまえ参り、此日、弁才天女の御神事にて、歌会にて、長隣宗匠、石田主人、僧高島春草、尼崎主人、御隠居、皆たち口。皆連客。哥の本式、真に面白き事。此乗興、色々哥読、一更半時に帰り候。三更迄夜ナベ。

\*半時（飯時）

（八月） 廿八日

早朝より認物、グミ袋認上、終日致し、夜四更迄読書、作図。

（八月） 廿九日

早朝より半切物、認物、終日致し、クハクシギに取りかゝる。此日、幡州にて父さまより文参り候。読書、作、四更迄。此日、クルメ吉田一寸参られ候。

\*クハクシギ(郭子儀) \*幡州(播州) \*作(作図) \*クルメ(久留米)

(九月)

九月朔日

朝、梶木町え行、廻状認、早速帰り、クハクシギ認上ル。又ジヤウと姥に取かゝる。此日七ツ時、野田中村、京師画工同道にて参られ、暫咄して帰られ候。此画工は年頃三十斗にて名有候。シウト父人画師柳馬場二条住。此日、京師え包物出す。夜一更後に臥。此日、油なしにて夜ナへ出来かね。

\*クハクシギ(郭子儀) \*ジヤウ(尉) \*シウト(舅)

(九月) 二日 朝、髪結

早朝よりシヤウと姥認、八ツ後時、認上ル。彼是七ツ時、認上ル。此日八ツ時より笑さま御こしにて、水屋方々大掃事遊し、釜懸られ候へとも、新三郎さま御こしなく、私、三之助、稽古致し下され、日暮、御帰り遊し候。此夕、豊島さま、五兵衛さま御こし遊し、御茶出す。暫して御帰り遊し候。此夜、読書、作図。此四ツ時、父さま幡州より帰られ候。明六ツ時、夜ナベ。此日、京師より文参り候。

\*シヤウ(尉) \*大掃事(大掃除) \*幡州(播州)

(九月) 三日

朝、井上さまえクヤミに参り、帰り懸、辻さまえ寄、色々軸物拝見致し候処、河徳参り、後室さま、私、河徳三人連にて、豊島さま釜日ゆへ参り、御茶戴候て、暫咄して帰り、此時、私宅暫御寄にて、又暫咄しにて、帰られ候。此日昼より雨、八ツ後七ツ時より雨中。父さま木津え帰られ候。又此夜、五兵衛さま御誘にて、豊島さまえ参り、御茶戴、一更二帰り、二更二臥。

\*クヤミ(悔)

(九月) 四日

朝より屏風認、八ツ時、認上ル。其より地袋二かゝる。夜五更迄。

(九月) 五日

朝より認物、地袋、終日致し、夜二更臥。又三更より明六ツ迄。

(九月) 六日

朝より其地袋二かゝる。終日認。夜明六ツ迄読書。此日、京師え包物出す。

(九月) 七日

朝より額面認、又地袋にかゝる。終日認、夜一更二臥。此日、父さま木津え帰られ候て一宿。

(九月) 八日 此日、髮結

昼後より三節子と同道にて木津え参り、それより天王寺□門先生え参り、暫して帰り、日暮二帰り候処、山西参られ候。此夜二更二臥。

(九月) 九日

此日、終日雨中。昼後より辻さまえ参り、又井上さまえ参り、木津さまえ参り、暫遊ひ候て、後藤先生え三之助入門致し候二付、つれて参り候て、此帰り、尚五郎さまえ参り、薄茶、後酒戴、帰り、四更迄読書。

(九月) 十日

此日、雨中。朝より地袋認、八ツ時より辻さまと山片さまえ参り、此日さらへ子にて、色々十三絃、三絃聞て、夜一更二帰り候。夜学、三更迄。

\*さらへ子にて(浚へ講にて)

(九月) 十一日

朝、後藤え参り、帰り、地袋認物、終日致し、夜一更二臥。

(九月) 十二日

朝、後藤え参り、帰り、地袋認、又短冊認。此日昼後、釜懸。辻新さま、笑さま御こし遊し、七ツ時分皆々帰られ候。此夜、玉五さま御こしにて、御茶出す。夜、読書、作図、五更迄。

(九月) 十三日

朝、後藤え参り、帰り、地袋認物、終日致し、此日認上ル。此日、雨中、夜三更迄。

(九月) 十四日 此日、髮結

朝より風呂先屏風にかゝる。終日認。此夜三更迄作図。

\*風呂先屏風(風炉先屏風)

(九月) 十五日

朝より認物、終日致し、此日暮、高城参られ、一宿致され候。

(九月) 十六日

朝より認物、終日致し、夜三更迄。

(九月) 十七日

朝より天王寺へ参り、其より木津へ参し、昼飯して帰り、此時、黒井堂参られ候て、薄茶出す。此日幸釜日にて、辻新さま、宗兵衛さま、笑さま御こし遊し候。日暮に帰られ候。此時、父さま木津へ帰られ候。此夜、五兵衛さま、豊島さま、来々堂参られ候。薄茶出す。此夜三更二臥。

\*幸(さいはひ)

(九月) 十八日

朝より認物、終日致し、日暮、辻さまえ風呂戴に参り候。此夜三更迄。

(九月) 十九日 此日、髮結

朝より画帖認。此日、父さま木津より帰られ候。夜三更迄。

(九月) 廿日

朝より画帖認。昼前より、辻さま先代さま御忌日にて、下寺町万福寺参詣。辻さま、新三郎さま、五兵衛さま、宗兵衛さま、お愛さま、私、下部三人参り、酒飯にて馳走。其より天王寺楚山先生え皆々連にて参り、此日、襖出来成、拝見致し、薄茶戴、暮半時二帰り候。夜、作図、五更迄。此日、父さま木津へ帰られ候て、一宿遊し候。

\*半時(飯時)

(九月) 廿一日

朝より認物、絹地額面。此朝、津田尊光寺参られ候て、薄茶出す。此時、父さま木津より帰られ候。昼飯出す。其より早速帰られ候。又半日認物いたし候。夜一更前迄、辻さまえ画をしへに参り候。帰り、暫して臥。

(九月) 廿二日

朝より認物。此日釜日にて笑さま御こし遊し、辻新さま居られ、一手前。三節、私、皆々稽古致し、日暮帰られ候。此夕、三節、元童、私、梶木津へ参り候処、宗匠留主中にて、暫咄し致し候処、宗匠帰られ、地袋落款致し、帰り候て、又皆々一手前、内にて致し候。三更二臥。

(九月) 廿三日

朝、山西え画之事二付、父さまと参り、帰り、昼、絹調二遣し、早速絹張認二懸る。終日認物。夜三更迄読書。此夜、三之助木津さまえ参り留主中。

(九月) 廿四日

朝より額物認、終日致し、此朝、父さま野田中村え参られ候て、昼時二帰られ候。此七ツ前、笑さま画扇面頼みに参られ候。父さま、八ツ時より木津え帰られ候。此夕、内にて皆々一手前ツ、致し候処、皆森さまより釜懸られ候て、呼に参られ候。早速参。辻宗兵衛さま、豊島さま御こし遊し、此日、炉開にて、一寸御酒有て、色々珍談、二更二帰り候。五更二臥。此日、青木雅信さま参られ候。

(九月) 廿五日

朝より額面認物、終日致し、此日、笑さま来られ候て、父さま、元之助、笑さま、三之助、天神さまえ詣致し候。夜一更二臥。

(九月) 廿六日 髮結

終日額面認。夜三更二臥。

(九月) 廿七日

朝、日和、昼より雨中。終日額面認。此日朝より釜懸ル。朝、楚瑞子参られ、茶出す。暫咄し有て、帰られ候。昼後、笑さま、辻新さま、五兵衛さま、豊島さま、池田さま御こし遊し候。皆々茶出す。七ツ時、帰られ候。此時、三之助、笑さま、五霊さまえ参られ候。帰り候て、私、父さま、元之助三人連にて御霊さまえ参り、帰り懸、辻さまえ寄候処、御酒御坐候て、色々三絃、咄し有て、帰り、私一手前する。夜三更迄認物。終日終夜雨中。

\*五霊さま(御霊さま)

(九月) 廿八日

日和能。朝より認物、紅葉額面、昼迄二認上、早速辻さまえ持て参り、又山西え持て参り候処、ヒドク喜れ候。作図する。此日、京姉さまより文。和宮様来月三日御出ましにて拝見の安内状参り、私方も上京の文早速遣し候。夜夕、江月さまのさらへ子にて辻さまと参り、一更半二帰り候。此日、父さま木津帰候。

\*安内状(案内状) \*さらへ子にて(浚へ講にて)

(九月) 廿九日

朝より認物致し候処、此朝、後藤え参り、相読せず木津さまえ参り、鶴の香合写し、早速帰り候。昼後より上田さま菊見にて呼に越され、三場加々久え参り、此日、上田家内惣連にて終日遊。此時、山外、北畑、外二二人、四人連にて参り、此客と上田主人と此坐に残りて、皆々夕方帰り候。此夜、夜通しする。

\*三場(三番)

(九月) 晦日 髪結

朝、短冊廿枚認。此日、芸州屋敷安井氏、画帖願ひに参り候。此夜、淀屋橋の船にて乗て守口迄行候処、船の楫折、行事出来ず、又々淀屋橋迄船もとし、船こしらへさして参り候。此時四更。此夜、船にて一宿する。

\* 船ににて(ママ) こしらへ (拵へ)

(十月)

十月朔日

昼後、伏見え着致し、早々京姉小路様え参り、御殿さま御いまにて御酒戴、色々馳走に相成。

大かた二更迄。

\* いま (居間)

(十月) 二日

朝より短冊十枚認。昼後、父さま同道にて智願院さまえ参り、暫咄して帰り候。智願院さま御風者にておすまり遊し候。又沢さまえ参り、早速帰り、又寺町え三宅え参り候処、兵庫柳屋始来り候。夕飯呼れて、姉小路さまえ帰り候。此夜、風早さま御ならせられ、御内殿様と御同道にて風早さまえならせられ候。此夜、殿様御留主中ゆへ、面白くなわむれて、夜八ツ比に臥。

\* 風者 (風邪) \* 留主中 (留守中) \* な (ママ) わむれて

(十月) 三日

七ツ頃より起て身こしらへして風早さまえ御供いたし候。蓮観院さま、青苔院さまならせられ、私御供いたし候。女中、蓮観院さま老女、おあいさま、松かえ、おきくさま、おたきさま、明石侍二人、父さま、要さま、下男二人。誠に御行列御結講上もなき事、りつはな事、真におかけさまにて結講に拝見致し候。誠、御所の内、広き御路、御車、御輿、三ツ并て御坐候処、真に筆にも及はぬ事ニ御坐候。四ツ時、御通行済て、早々帰り、又身こしらへして、御内殿様、父さま、姉さま、私、要さまと音羽御所え参り、此参り懸、石川文山の昔し居られ候詩讀堂え参り、いろ／＼拝見致し、三階え登り候処、四方の見渡し、日和能、秋の景色、又是も其興無極。いろ／＼文山手馴し如意なと写し、茶をのみ、暫乘興て遊、其より音羽御所林丘寺様え参り、其御殿の結講さハ筆にも口にも及はす。色々御襖、御屏風の類、探幽の画、真に見事にて見かれせず拝見致し候へは、惜かな、日も入相に成ぬれば、心いそかしく、林丘寺さまの御門前にて、少シ北の方を見渡せば、近日、和宮様御幸あらせられしシユ覚院の上の御茶屋、又下の御茶屋、右と左に詠つゝ、所々の紅葉も薄くこく染交して、其気色、

面に写してと思ひつゝ、もはや夕暮に**ひ間**もなく、残り多くも帰りまいらせ候。其より西の方の新田と申里に十一屋と申茶屋有て、此処にて御携の御馳走戴、暫遊ひ候て、又帰り路の其面白さ、是は又おかしき事斗申て帰りまいらせ候。其より御茶戴候て帰り（以下、記述ナシ）

\*こしらへ（拵へ） \*こしらへ（拵へ） \*詩讚堂（詩仙堂） \*結構（結構） \*見かれせず（見離れせず） \*いそかし（忙し） \*シユ覚院（修学院） \*ひ間（暇）

（十月） 四日

朝より認物。昼後より殿さまお山えならせられ、是又御馳走にて、此坐又歌の御咄し色々御坐候て、又一興。日暮より雨にて御庭の雨中の景色、又面白き事。大かた一更迄。

（十月） 五日

朝より御内殿さま嵯峨え御仏参あらせられ御留主中、此日、父さま、智願院さまえ参られ候。寿部院さま、面白きはやり哥を聞せと仰られ、三絃ひく。又姉事、舞を舞、日暮迄遊ぶ。此日朝より大風大雨。殿さま、日暮後、御帰りあらせられ候。御産土の御茶御入遊し、御茶戴、色々珍談有て、大かた一更後に臥。

\*御（産土（ママ））

（十月） 六日

おほつかなき天氣に候へとも、朝より帰坂のつもり致し候へとも、殿さまたつて御留遊し、今日滞留せよと仰られ候。川の水高くゆへ、又々帰しても後**あんし**事と御仰下され、今一宿と留られ候。朝より御釜御懸られ、御日御番も御不参遊し、此日昼より父さま寺町え参り候て、ひとく殿さま御待遊し候へとも帰りなき此時、石山さま御ならせられ候。御酒御出し遊し、此時日暮過、父さま帰られ候。又御相伴致し、此御坐御茶事の珍談、**大無てうほう**咄しにて面白き事。御酒後、御薄茶手前、私せいとすゝめられ候て、一手前いたし候。大てい二更二石山さま御帰りあらせられ候。

\*あんし（案じ） \*大無てうほう（大無調法）

（十月） 七日

朝よりいよ／＼出立致し候。此時、寺町え**いとま**こひに寄、昼時、伏見え着致し、昼後彼是八ツ時、船出して帰り候。八軒屋彼は一更前に着致し、すぐ辻さまえ参り、暫咄しにて、内え帰り候。

\*いとま（暇）

（十月） 八日

朝より短冊十枚認、終日致し候。夜三更迄夜ナへ。



(十月) 九日

朝より絹地画帖認、又風呂先屏風認ニかゝる。此夕、玉五え一寸参り候。帰り候へは、母さま参られ候て、一宿遊し候。此夜三更迄夜ナへ。

\*風呂先屏風(風炉先屏風)

(十月) 十日

朝より風呂先屏風認。此朝、母さま木津え帰られ候。父さま、中間、報恩講にて木津え帰りて一宿。此夜明六ツ迄画ス。

\*風呂先屏風(風炉先屏風)

(十月) 十一日

朝より風呂先屏風認物、終日致し、夕方、辻さまえ風呂戴に参り、早速帰り、五更迄画、又縫物。此日、播州梅より文参り候。

\*風呂先屏風(風炉先屏風)

(十月) 十二日 此日、髮結

朝より風呂先屏風認ニ懸、昼後仕立上ル。昼後八ツ時より、北三丸屋畑え参り、此日、唐津屋敷碁の会にて候也。此茶席にて茶を吸、山中鶴之助さま御手前にて、此後、画の席上はつみ、酒の後又三丸屋本宅え参り、此坐妓婦参り、暫大さハキ。是又一興。此はて一更、帰り、画、明六ツ迄。此夜、父さま帰られ候。

\*風呂先屏風(風炉先屏風) \*はつみ(弾み) \*大さハキ(大騒ぎ)

(十月) 十三日

朝より風呂先屏風砂子振。此朝、父さま木津え帰られ候。此昼時より三之助事、天下茶屋法事ニ参り候て、半時頃に帰り候。此夜一更二臥。夕方、一手前する。

\*風呂先屏風(風炉先屏風) \*半時(飯時)

(十月) 十四日

早朝より雨中、元之助と二人連にて天王寺え参り、暫咄して帰り、朝飯木津にて呼る。帰り、早々辻さまえ参り、善哉戴。それより木津さまえ参り、竹の四方棚にて茶の稽古。又炭手前。此日、宗匠留主中にて、堀さまにをしへてもらい候。又森さまえ参り、薄茶戴。浦の藤井手前する。七ツ時に帰り候。此夜明六ツ迄作図する。

\*をしへ(教へ)

(十月) 十五日

朝より認物。昼時、父さま木津より帰られ候て、私と同道にて宮川町円光寺御遠忌ニ参詣致し、御法坐三坐聴聞致し、七ツ時に帰り候。此時、五兵衛さま御こし遊し、薄茶出す。二更二臥。

(十月) 十六日

朝より父さま、元之助二人連にて堺え参られ候。此日、辻五さま報恩講にて参詣致し、七ツ時に帰り候。此日、京三宅え包物出す。此夕、木津え参り、子たち惣連、[五靈さま](#)え詣致し、帰り、作図。二更二臥。

\*五靈さま(御霊さま)

(十月) 十七日 此朝、髮結

四ツ時より辻五さま御法事にて参詣致し、辻新さま、尚五郎さま御参詣にて、帰り懸寄せられ、薄茶出す。又辻さま店三人御こしにて、新三郎さま御手前にて薄茶出す。七ツ時、辻五さま御こし遊し、又茶出す。夜五更迄作図。

(十月) 十八日

朝より半切認。昼時より井上え参り、稽古して七ツ時帰り、日暮迄半切認、夜三更。

(十月) 十九日

朝、熱、詣致し、風呂入に木津さまえ参り、帰り、又一寸辻さまえ参り、絹地猛虎認、終日致し、夕方、木津さまえ三之助と同道にて参り、竹柱四方棚にて稽古致し、一更二帰る。三更迄作図。

(十月) 廿日

朝より猛虎認。此朝、木津さまえ屏風箱書付に参り、早速帰り、又認物、昼迄ニ認上ル。昼後、井上さまえ参り、稽古致し、日暮迄。其より辻さまえ参り、此夕、右ノ席にて店方若衆御招、私相伴致し、一更前に帰り候。三更二臥。

(十月) 廿一日

朝、辻さまえ御礼ニ参り、早速帰り、屏風認。此夕、三之助、辻さまニ招かれ候。此夜、父さま、元之助帰られ候。三更二臥。

(十月) 廿二日

朝より屏風認。昼時より井上さまえ参り、夕飯戴て帰り候。此日釜日にて、辻新さま御こし遊し候。此昼後、父さまと五兵衛さまと同道にて、備徳御遠忌ニ参詣致され候。又木津え帰られ候。此夜、辻五さま御こしにて、薄茶出す。夜三更迄作図。

(十月) 廿二日 髪結

朝より屏風認、扇子十三本、又短冊六枚認。夕方より井上さまえ参り、稽古致し候て、一更二帰り、没然として臥。

(十月) 廿四日

朝より屏風認。昼前、木津え参り、風呂入、帰り、終日認物。此日、京姉え文出す。夜三更迄、此夕、皆々一手前する。此日、父さま帰られ候て、又木津え行れ候。

(十月) 廿五日

朝より屏風認。此朝、笑さま御こしにて、昼に帰られ候。終日認物。此夕、皆々一手前する。暫して父さま木津より帰られ候。夜三更迄。

(十月) 廿六日

朝より認物。夕方より井上さまえ参り、一更二帰り、三更二臥。

(十月) 廿七日

朝より認物。昼後より笑さま、辻新さま御こし遊し、又五兵衛さま、池田さま、尚五郎さま、豊島さま御こしにて、薄茶出す。此日、筑後吉田より呼に参り、父さま行れ候。皆々一更前に帰られ候。父さま一更二帰られ候。三更迄作図。

(十月) 廿八日

朝より認物、終日致し、夜三更二臥。

(十月) 廿九日

朝よりコテくして、昼後より認物。此朝、笑さま参られ候て、昼時二帰られ候。夜三更迄作図。

(十一月)

十一月朔日

朝より父さまと同道にて天王寺楚山先生え参り、又縫物屋え一寸伺、木津え帰り、見世油君御遠忌にて常万寺さまの御法談御坐候て聴聞致し、御膳呼れる。此時、願泉寺□さま、おやすさま同坐にて、日暮二帰り、中之島え一更前に帰り、其より扇面百枚認、五更迄。

(十一月) 二日

早朝より扇面認。昼後、笑さま、新三郎さま御こし遊し、一手前ツ、稽古致し、夕方迄。夜一更二半時二臥て、又五更二起て、扇面認。此日、父さま木津え帰られ候て留主中。  
\*半時(飯時)

(十一月) 三日

早朝より昼迄二扇面認上ル。夕暮より豊島さま御釜日にて参り、連客、来々堂、玉尚さま、鳥羽屋若、色々咄し面白き事。此一更二父さま木津より帰られ候。夜ナベ、三更迄。

(十一月) 四日

早朝より父さま木津え帰られ候。此朝、後藤さまえ参、又木津さまえ参り、袋棚にて稽古致、帰り、認物。七ツ時、堺吉井参り、一更迄酒飲して、又木津さまえ三之助道同にて参り、又御酒にて、三更迄。下男、木津さまにて一宿。

\*道同(同道)

(十一月) 五日

吉井、木津さまの正午の茶之湯に参られ候て、夕方二帰られ候。父さまも此時、帰られ候て、三更迄、色々面白き咄有て臥。

(十一月) 六日 髮結

早朝より吉井帰られ候。此朝、父さま木津え帰られ候。終日認物。夜一更二父さま木津より帰られ候。

(十一月) 七日

朝、父さまクルメ吉田え参られ候。此時、後藤え参り、相説、講訳して帰り、終日作図致し候。父さま昼時より木津え帰られ候。夜五更迄認物。此日、辻新さま御こし遊し、茶の稽古有。

\*クルメ(久留米) \*講訳(講釈)

(十一月) 八日

早朝より元之助連て天王寺楚山先生え参り、暫咄しして、薄茶戴。昼時、木津え帰り、昼飯食て、迹見さまえ参り、御書さまの御法談二一坐逢て、其より団治え御遠忌にて宮川町円光さまの御法談聴聞して帰り、一更前二父さまと三人連にて中之島え帰り、(翌日へ続く)

\*御書さま(和尚さま)

(十一月) 九日

朝、後藤え参り、早速帰り、終日和美人認。此日四ツ時より雨中。二更二臥。

(十一月) 十日

終日美人認。此朝、竹林参られ候。又楚瑞子参られ候。此夕、笑さま御こしにて、暫して帰られ候。二更迄作図。

(十一月) 十一日

早朝より認物、終日致し、楚瑞子参られ候。八ツ時より父さま木津え帰られ候。夕方、笑さま参られ候て、**半時頃迄**居られ候。此時、雨降。作図、三更迄。

\*半時(飯時)

(十一月) 十二日

早朝より美人認、昼時認上ル。此八ツ時、辻新さま御こしにて稽古被成候。日暮、新三郎さま同道にて辻さまえ風呂もらいに参り、帰り、夜、扇面認、五更迄。此夜四ツ時、父さま木津より帰られ候。

(十一月) 十三日 髮結

早朝より美人認ニ懸る。夜、扇面認物、**五更二迄**。

\*五更(二(ママ))

(十一月) 十四日

終日美人認。夕方より木津さまえ参り、茶の稽古する。夜三更迄。

(十一月) 十五日

朝、美人認上。昼後、画帖認。此日、父さま木津え帰られ候。夜三更迄作図。

(十一月) 十六日

朝より画帖認。昼後、辻さまえ風呂戴に参り、其より井上え参り、又**五霊さま**え参り、日暮より辻さまえ一寸参り、又木津え参り、茶の稽古新席で致し、又馳走二成。一更二帰り、二更二臥。此日、父さま夜船にて京上致され候。

\*五霊さま(御霊さま)

(十一月) 十七日

朝より三之助事、天王寺え参り、私、昼時迄拔本致し、昼後、認物。此時、笑さま参られ候て、一手前ツ々稽古致し候。此時、中五さま参られ候。夕方、皆々帰られ候。夜五更迄作図。

(十一月) 十八日

終日認物致し、夜五更迄作図。

(十一月) 十九日

終日認物致し、此日、堀永進参られ候。此夕、父さま京下り遊し候。一更半二臥。

(十一月) 廿日 髮結

朝より認物。昼時より井上別荘え参り終日遊ぶ。一更前二帰り、三更二臥。

(十一月) 廿一日

早朝より木津え帰り候はつ<sup>つ</sup>の処、上田さまより五<sup>五</sup>霊の首振見せ候やう仰られ候て、昼時より参り候。一更二帰り候。芝居、始ハ梶原源太、次中将姫、切恋女房。此日、木津寺にて講の会致し候。

\*はつ(筈) \*五<sup>五</sup>霊(御霊)

(十一月) 廿二日

朝より昼迄認物致し、少々腹いたにて臥。此時、笑さま来られ候て、又新三郎さま来られ、一手前遊し候。夕方、皆々帰られ候。此夜、父さま帰られ候。夜なへなし。

(十一月) 廿三日

朝より絹地豎物三羽鶴認上ル。夜二更二臥。

(十一月) 廿四日

朝より父さま、笑さま、二<sup>二</sup>り連にて堺え参られ候。終日鶴の草稿認。此日、上田さま釜日にて呼に参られ、雪舟の竜の軸、又外二色々軸物拝見する。細合手前にて茶飲、夜三更迄。  
\*二<sup>二</sup>り(二人)

(十一月) 廿五日

終日草稿認。此日、京姉小路さまより文着。絹地蓬莱山にかゝる。夜三更迄。

(十一月) 廿六日 髮結

蓬莱山認、昼後迄二仕上ル。又絹地七福神にかゝる、夜三更迄。

(十一月) 廿七日

早朝より七神認、昼前二認上ル。昼後より木津え帰り、願泉寺え参り、常万寺さま法談二坐聴聞して、夕方より唯<sup>唯</sup>泉寺え参り通夜する。此夜、法談四坐有。此夕方、父さま堺より帰られ候。

\*唯泉寺(唯専寺)

(十一月) 廿八日

朝、木津より帰り、終日遊ぶ。夕方、父さま木津より帰られ候て、大お目玉にて、驚々入候、此五更迄。

(十一月) 廿九日

終日扇面認、夜三更迄。

(十二月)

(十二月) 朔日

終日半切物、横物十四枚認、夜四更迄。

(十二月) 二日

明六ツ起ニテ木津え参り、朝飯仕度して天下茶やえ参り、其ヨリ堺え参り、昼時。其ヨリ禅宗正法寺え参り席画する。半時頃迄。帰り、お吟さま手前にて茶飯。此席、見竜さま、中新、父さま、私、色々珍談、天狗咄、三更迄。此日、画会催人京師雲濤到る。父人、拙、画書。

\*天下茶や(天下茶屋) \*半時(飯時) \*茶飯(茶飲)

(十二月三日) 三十日、日記ナシ)